

ふん尿を貯留・管理する

- 1 汚水を流出させない。地下浸透させない。
- 2 貯留施設に雨水を流入させない。
- 3 堆肥舎には、はい汁だめを造る。
- 4 定期的に見回り、補修する。
- 5 パドックは舗装し、周囲に草地を配置する。
- 6 草地や放牧地と河川の境には緩衝帯を造る。

〈基本〉

家畜排せつ物法では、ふんの処理・保管施設は床を不浸透性材料で築造し、適当な覆い及び側壁を有することが求められています。防水シートを下に敷き、上からも防水シートで覆う等の低コスト手法の工夫も考えられます。

ふん尿貯留施設の設置場所は、極力河川から離します。また、散布時の運搬の労力を減らすため、貯留施設を草地や圃場に隣接して設置することも一つの方法です。

1 汚水を流出させない。地下浸透させない。

貯留施設からふん尿やはい汁(堆積したふん尿から流出する液体)が流失や地下浸透していないかを確認します。堆肥盤は土手等で汚水の流出を防ぎます。

2 貯留施設に雨水を流入させない。

牛舎周辺や屋根に降った雨水が貯留施設に流れ込むと、結果的に施設が容量不足となったり、はい汁が流出しやすくなります。

雨水は、ふん尿と混ざらないように、溝を掘るなどして側溝へ流れるようにします。

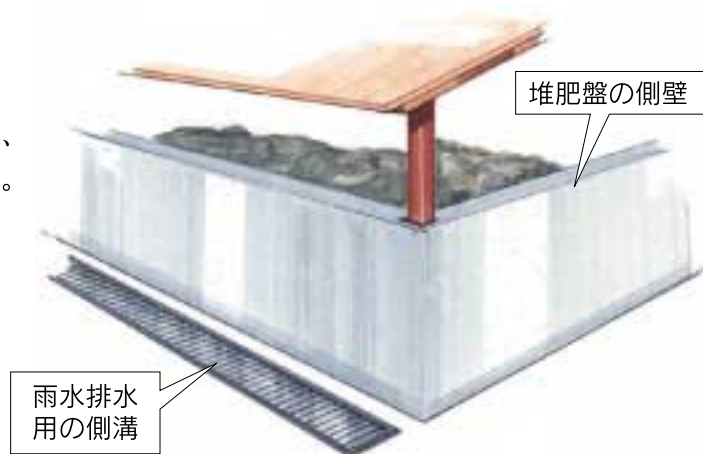


図1 堆肥舎や堆肥盤への雨水の流入をさける

3 堆肥舎には、はい汁だめを造る。

ふん尿からのはい汁が河川や側溝に流れ込んで、環境を汚染する場合があります。この防止のため、堆肥舎には十分な容量の「はい汁だめ」を造って、はい汁を貯めるようにします。はい汁だめはシートを用いても造ることができます。

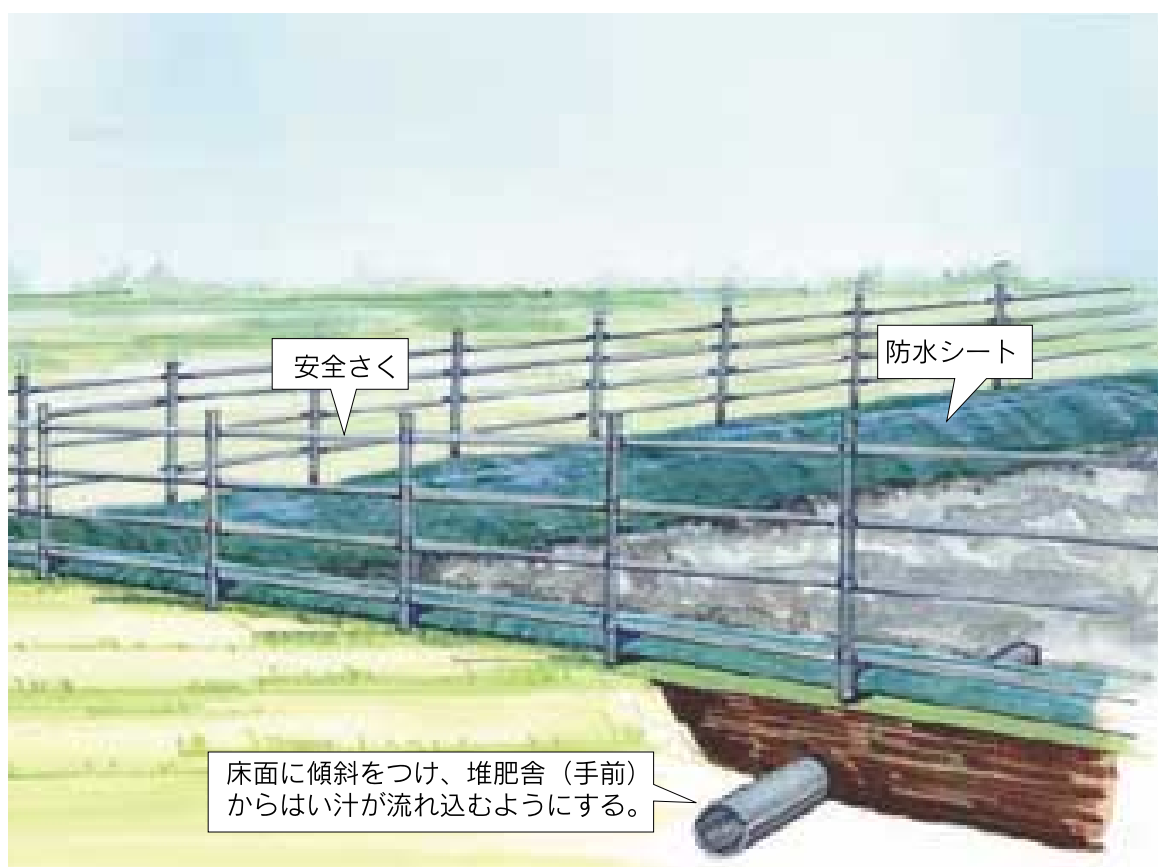


図2 堆肥舎や堆肥盤には、はい汁だめをつくる

4 定期的に見回り、補修する。

堆肥盤や堆肥舎、スラリーストアなどのふん尿の貯留施設にひび割れや破損が生じていたり、ふん尿やはい汁の漏れや流出が起こっていないか、定期的に見回るようにします。問題を見つけたら、速やかに修理します。

5 パドックは舗装し、周囲に草地を配置する。

パドックは、なるべく河川から離すと同時に、地下浸透しないようにコンクリートなどで舗装します。周囲に草地を配置して降雨時にふん尿が河川に入らないようにします。パドック内のふん尿は牛舎内のふん尿と同じようにこまめに除ふんし、堆肥舎等で貯留します。

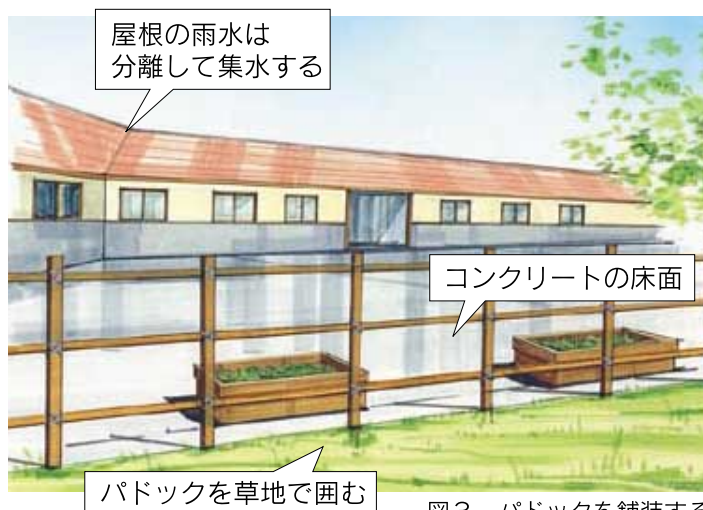


図3 パドックを舗装する

6 草地や放牧地と河川の境には緩衝帯を造る。

草地や放牧地では河畔林などの緩衝帯を造り、散布したり排せつされたふん尿が直接河川へ入らないようにします。放牧地では河川を水飲み場にしないようにし、また牛が河川に入らないように牧柵などを設置します。



図4 林による緩衝帯